

2026年4月13日

日本の大学への「包装学科・包装学専攻」新設に向けた活動について

— 包装産業を支える次世代の高度専門人材育成を目指して —

日本包装学会
会長 永井 一清

謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より本学会の活動に対し、多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当学会では、日本の包装産業の持続的な発展と学会の活性化を目的に、2025年度、会長直轄の「日本の大学への包装学科・包装学専攻の新設を推進するためのワーキンググループ」を設置いたしました。2026年3月の理事会において、このワーキンググループ活動を正式な委員会活動として展開させて推進していくことが決議されました。

会員の皆様にその活動概略と今後の展望をご報告いたします。

1. 活動の背景：なぜ「包装学科」が必要なのか

現在、日本の大学には「包装」を冠した学科や専攻が存在しません。

このことが、以下の大きな課題を生んでいます。

- **進路選択における認識不足：**日本国内において少子高齢化の進行から慢性的な人材不足が予測されている状況において、高校生が将来像を描く際、人生の岐路で「包装産業」を思い描くことが困難な仕組みになっています。
- **グローバルな遅れ：**米国（ミシガン州立大学等）や中国、欧州では既に包装学部・学科が確立されており、高度な学位を持つ専門家が産業を牽引しています。
- **人材の安定確保：**包装学（学士）（Bachelor of Packaging）・包装学（修士）（Master of Packaging）・包装学（博士）（Doctor of Packaging）と「包装学」を学んだ人材の育成は、47都道府県すべてに雇用を生み出す7兆円規模の基盤産業である包装業界にとって、優秀な人材を安定的に採用するための生命線となります。世界全体では100兆円を超える成長産業であり、経済の発展性のある海外諸国への展開を加速していける高度な専門教育を受けた人材は必要不可欠です。

2. 文部科学省を始めとした関係省庁および産業界への働きかけ

学部・研究科、学科・専攻の新設には高いハードルがありますが、以下の活動を進めてまいります。

- **産業界のニーズ可視化：**日本包装技術協会（JPI）と連携し、包装に関連する企業へ包装学部・包装学研究科、包装学科・包装学専攻の必要性や要望についてアンケート調査を実施します。これは文部科学省申請時の重要な根拠データとなります。
- **省庁へのロビー活動：**文部科学省だけでなく、経済産業省、農林水産省、環境省など関連各省庁への働きかけを行います。

- **TOKYO PACK 2026 の活用**：2026年10月の「TOKYO PACK 2026」ではアカデミアブースが設置され、包装学会も同じブース内で出展します。多くの企業・学生が集まる場を利用し、周知活動とアンケートを行います。

3. 会員の皆様へのお願い

包装学部・包装学研究科、包装学科・包装学専攻の設立は、学会の悲願であると同時に、日本の産業競争力を左右する国家的なプロジェクトです。今後実施予定の採用ニーズアンケートへの回答や、社会的な機運醸成へのご協力をお願い申し上げます。

全国の大学から、年間1,000人、5,000人単位の「包装のプロ」が輩出される未来を、共に創ってまいりましょう。

謹白

【本件についての問い合わせ先】

日本包装学会事務局

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-20-3 バラードハイム 703

TEL:03-5337-8717 FAX:03-5337-8718

e-mail: office@spstj.jp